



CONTENTS

Top Opinion

2022年未来構想PF 新年挨拶

未来構想PF会長 林 康雄

1

未来構想PF理事年頭所感

2

VOICE

コロナ禍のマイホーム購入事情

鉄建建設 大庭 啓輔

4

たすきリレー

新幹線との係わり

鹿島建設 佐藤 武志

5

今月の国際比較データ

6

PF書店／私のインフラ巡礼／編集後記

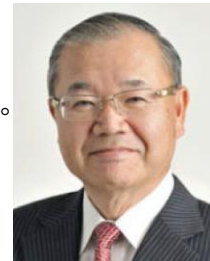
7

Top Opinion

2022年未来構想PF 新年挨拶

未来構想PF会長 林 康雄

新年あけましておめでとうございます。
少し収まりかけたコロナ禍の中、皆さんはどのようにお正月を過ごされたでしょうか。年頭に当たり今年一年はどのような年となるのか考えてみました。
私が勤務している鉄建建設について述べると、2024年4月より労働基準法における残業時間の上限規制が適用になるため労働時間の短縮が絶対条件であり、さらに担い手の確保という観点から週休2日制の実現等働き方改革に向けた取組みの最終段階にきています。



一方、ICTの活用、サイバーセキュリティの確保そしてDXの推進と業務の大幅な変革を行っていく必要があります。また、SDGs、カーボンニュートラルへの取組みもスタート致しました。さらに東証の上場基準の見直しとそれと連動したコーポレートガバナンスコードの見直しなど様々な課題があり、まさに変革の年となりそうです。

一方、JR東日本等鉄道事業者はコロナ禍の影響をまろに受け、現在極めて厳しい経営を強いられています。コロナ禍によって変容した鉄道利用形態はコロナ終息後も完全には元には戻らないものと考えられています。これまで東京一極集中による通勤通学輸送とほぼ独占状態と言える広域ネットワークを活用したビジネス・観光需要に支えられたこれまでのビジネススキームを見直さなければならない状況にあります。今後、JR東日本等JR各社にあっては国鉄民営化以来の第二の創業期のような認識で今後のビジネスの有り様を検討していく必要があると思います。

さて、未来構想PFでは昨年一年間をかけて、若手技術者の計画・構想能力の向上を目的とした「駅まち未来構想研修」を実施してきました。昨年11月に中間報告を行い森地先生、岸井先生等未来構想PFの役員の方々からのアドバイスもいただきました。今後、年度末の最終報告に向けて準備が進められていることと思いますが、アフターコロナを見据えた斬新な提案を期待しているところであります。

その他の講演会、現場見学会、調査研究等の未来構想PFとしての諸活動もコロナの感染状況を見ながらもそろそろ始める時期にきています。

未来構想PFの会員、関係者の皆様、今年も宜しくお願い致します。



私のインフラ巡礼



～中央本線笹子隧道～

120年前の壬寅に完成した鉄道トンネル「因地利」は伊藤博文が書いた扁額です

(JR東日本 岩井有人)

未来構想PFのホームページ(HP)をご覧ください。

会員はもちろん社会に大きく開かれた「参加型」HPです。

未来構想PF

で検索してください。

トップページへのリンクは [こちら](#)



未来構想 P F 理事年頭所感



「認知症特効薬への期待」

今年は、団塊の世代（1947～49生まれ）が後期高齢者となり、高齢国家の先頭を走る我が国が、いよいよ超高齢時代を迎える。年始から死の話で恐縮だが、養老孟司氏は、雑誌Newtonの中で、仏哲学者の死の分類「一～三人称の死」を引用し、身近なものに大きな影響を与える二人称の死を重視するとした。因みに、一人称は本人、三人称はその他である。

一方で、その死に先立ち、認知症の増大も大いに危惧されている。この認知症については、日頃より「死の最も重要な意味は、人生の足跡・思い出の共有者を失うこと」としている私の思いを重ねれば、『二人称の死に匹敵する悲しむべき出来事』となるのである。

コロナ禍、その特効薬が叫ばれ、期待されている。悲惨な死者、重傷者を見た我々としては当然の事であるが、同様に事実上の「（二人称の）死と同等な認知症」への特効薬の早期誕生にも、大いに期待したい新年である。

理事・副会長 齊藤 親

「準備された心」

Chance favors the prepared mind. という言葉があります。日本語では「チャンスは準備された心に降り立つ」、「幸運は準備された心に宿る」などと訳されています。「準備された心」についてはいろいろな解釈が成り立ちそうですが、私は「ワクワクすることについて、自分で感じて、自分で考え、そのこと自体が意識されなくなる」と考えています。初めに五感で感じるのがポイントです。最近では私たち人間の身体も、脳が中央で制御しているわけではなく、身体全体で分散処理していると言われてます。すなわち身体中の五感全てが相互に情報交換をしつつ、適切な生理現象が選択されているようです。

2年続いたコロナ禍の終息が近づく今、一人一人が五感をフルに解放して、変化の兆しを敏感に感じ取り、各々のチャンスをつかむことで、新しい社会に適切な行動を連鎖することができると思います。2022年がそんな年となることを祈念します。

理事 大松 敦

「思想のダイバーシティ」

新型コロナウイルスのパンデミックにあって、日本ではマスクの定着とワクチンの接種が「普通に」進んでいる。他方、報道によると、海外では自由に反するとしてマスクを拒否する人達や、陰謀論を信じてワクチンを接種しない人達が少なからず存在している。日本では、同じ人間でも、徹底した行動に結び付くレベルで考え方に極めて大きな幅が存在し、かつ少数ではないことに驚きと意外性をもって受け止めた人も多いのではないだろうか。

幾つもの仮説や解釈が成立するが、前者（マスク）は、個の利益と公の利益が相反する場合の価値観の現れと言え、後者（ワクチン接種）は、インターネット・SNSの普及等を背景に、その個の利益の内容の決定要因となる思想自体に影響する「情報」の接触傾向や「エビデンス」確認の各種限界が関係していると言える。しかも、そうだと思うことと、そうかも知れないと思うことには決定的な隔りがあるが、その境界線を容易に跨ぐ強さを伴う。

鉄道整備やまちづくりには、言うまでもなく、その息の長さから長期的視野が重要であり、また、構想・計画段階から実施段階まで直接的または間接的に多くの関係者の議論や合意を必要とする。

変異を続ける新型コロナ、地球温暖化による生態系の変化や豪雨災害の頻発・激甚化、大地震や火山噴火など、都市の将来に密接に関わる自然リスクが高まっているが、人々の思想のダイバーシティについても、質、量、強度（時として激甚化）とも大きく変わっていくであろう。2022年は、こうした視点も踏まえて取り組んでいく必要がある。

理事 金山 洋一

「新年のご挨拶」

（遅まきながら）明けましておめでとうございます、今年もよろしく願い致します。今から150年前の1872年、わが国最初の鉄道が開業しました。それから100年、鉄道網は全国に広がり、1970年には全国新幹線鉄道整備法が、そして1972年には山陽新幹線が開業します。さらにそれから50年、今はリニア中央新幹線が建設中です。

こうして「大量に・早く」を追求してきた鉄道ですが、残念ながら速度でいえばWEBの世界にかなうものではありません。情報はWEBで双方向に動き、それを利用してモノと人のリアルな交通の世界が最適化を目指すといった状況が生まれつつあるように思います。

リモートワークで逆にリアルな世界の重要性が再認識されましたが、考えれば「大量に・早く」もその先の目的があつての世界であり、鉄道がもたらす「出会い」こそ我々が求めるものであったように思います。

皆様今年もいい出会いがありますように。

理事 岸井 隆幸



「独創的な発想でより豊かな未来社会を」

未来構想PFの関係の皆さま、新年あけましておめでとうございます。

新型コロナの出現は、私たちのライフスタイルを大きく変容させ、人流・交流人口の減少、東京都から地方への移転に伴う都人口の減少など、交通機関のサービスや都市の在り方を根本的に見つめ直すよう問題提起してくれました。そこで、この問題を、変化は明るい未来を掴み取るチャンスと捉え、「独創的な発想」と「変革していく実行力」で解決していくべきであると考えています。

進化論を唱えたダーウィンは、「生き残る種とは、最も強いものではない。最も知的なものでもない。それは、変化に最もよく適応したものである」という名言を残しました。また、マイクロソフト創業者のビル・ゲイツは、「自分が出したアイデアを少なくとも一度は人に笑われなければ独創的な発想をしているとは言えない」と言っています。

本年も、未来構想PFにおける活動を通じて「旬な情報」に触れながら、特に若手技術者の皆さんが、「独創的な発想」に基づき、ウィズコロナ社会においても、交通（鉄道主体）×都市×DXによってより豊かな未来社会が実現できるように、「変革していくリーダー」として活躍していただくことを祈念しまして、新年の挨拶とさせていただきます。

理事 栗田 敏寿

「新年のご挨拶」

皆様 新年明けまして、おめでとうございます。今年もよろしくお願ひいたします。

昨年、待望の東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。新たに追加された競技のひとつ、ボルタリングは、日本人選手の活躍だけでなく、競技の面白さに引き込まれました。ボルタリングの中で3種類ある競技の魅力は当然として、メダルを決める総合順位が各種目順位の「積」の少ない順に上位になる類を見ないルールのため、最後の選手の競技まで結果がわかりませんでした。新しいスポーツとして、選手や観客にとって本当に刺激的で、このルールが選手の能力や精神だけでなく、競技の魅力を高めていると感じました。

ところで、ここ数年或いはもっと以前から、働き方改革、コロナウィルス感染症対策、地球温暖化対策など、これまでの社会経済の基本的なルールが変わりつつあります。この変化を否定、不安視するのではなく、魅力的な社会の実現の糧になる一年としたいものです。

理事 廣瀬 隆正

「新年のご挨拶」

明けましておめでとうございます。

一昨年から続く武漢コロナ騒ぎで、「禍を福と為す」を今日ほど強く感じることは無いと思っています。コロナ前の前提が大きく崩れ、今迄には無いことが一気に進んでいます。自分自身、高齢且つ基礎疾患保有者故、感染は命取りになると通勤電車を避け、八王子から新宿を特急通勤に変更しました。弊社のアプリ「えきねっと」なるものがあり、ネット予約では通常価格760円が660円、更に33円分のポイントが貰え、ポイントと同区間の購入に使用すれば、460円で乗れる。我が社ながら工夫に感心。然し、スマホ用のアプリのみ対応と判る。止む無くガラ携帯をスマホに替えました。こうなると、一気に銀行、郵便局等行くのが面倒になり、各種アプリを導入し全てスマホ上で送金や通帳確認を行うように成りました。古希に近い爺いでも、コロナのお蔭で変化を余儀なくされる、況や中年青年に於いてをや。こうして、DXが一気に進むのだろうかと感じる今日この頃です。

理事 村尾 公一

「新年のご挨拶」

新年あけましておめでとうございます。2021年中は夏をピークとした感染の影響等もあり、本プラットフォームも限られた中での活動となりました。第六波への警戒もまだまだ解けない中ではありますが、年度下期からは少しずつ街の人出や交通機関の輸送量も回復してきており、力強さを感じている今日この頃です。

報道では都心のオフィス空室率や賃料も好転に転じたとの記事がありましたが、一連のコロナ禍を経て社会経済活動のどこに変化が定着し、まちや駅にそれがどう影響をもたらすのか、良く注視をしていきたいと思ひます。

新年を迎えて、事務局も交代してから2年目に入ります。新たな気持ちでプラットフォームの活動に取り組み、皆さまのご支援、ご期待に少しでもお応えできるよう頑張ります。

本年も、どうぞよろしくお願い申し上げます。

理事・事務局長 大口 豊



本年も未来構想PFをよろしくお願い申し上げます





VOICE

コロナ禍のマイホーム購入事情

鉄建建設 大庭 啓輔

私事で大変恐縮ですが、最近マイホーム（特にマンション）の購入を真剣に考えています。物件検討にあたり「どの街に住むか」「今買うと高掴みなのか」に頭を悩ませています。

昨今、不動産専門家のコラム等では、コロナ禍で「密を避ける」「リモートワークの定着」「外出自粛による広い家のニーズ拡大」などを理由に「都心から郊外へニーズが移るのでは」という推論をよく見かけます。

“プチ移住”などという言葉も作られ「八王子・奥多摩」や「鎌倉・三浦」などへの住み替えに興味があるというアンケート結果もみられます。

一方、コロナ禍継続2年が経ち、住宅ニーズの実態に変化は見られるのでしょうか。

1. 「住みたいまちランキング」系の推移

住宅ニーズついて、有名なところでは「SUUMO」「ARUHI」などが毎年、アンケートや顧客データをもとにランキングを発表しています。

【SUUMO住みたいまちランキング】

	2019	2020	2021
1	横浜	横浜	横浜
2	恵比寿	恵比寿	恵比寿
3	吉祥寺	吉祥寺	吉祥寺
4	大宮	大宮	大宮
5	新宿	目黒	目黒

→ with コロナ

※ユーザーアンケートにより選出。
賃貸も含むため、一概にマイホーム
需要とは言えない

【ARUHI本当に住みたい街大賞】

	2019	2020	2021	2022
1	赤羽	川口	川口	辻堂
2	南阿佐ヶ谷	赤羽	大泉学園	川口
3	日暮里	たまプラーザ	辻堂	多摩境
4	川口	柏の葉 キャンパス	有明テニスの 森	大泉学園
5	柏の葉 キャンパス	入谷	大井町	海浜幕張

→ with コロナ

※専門家による投票にて選出。“コスパ”の項目があるため、都心からの
距離と価格のバランスで選出される傾向がある

この結果では2019年から2021年にかけて目立った変化はなく、「ニーズが都心から郊外へ移っている」とは読み取れません。

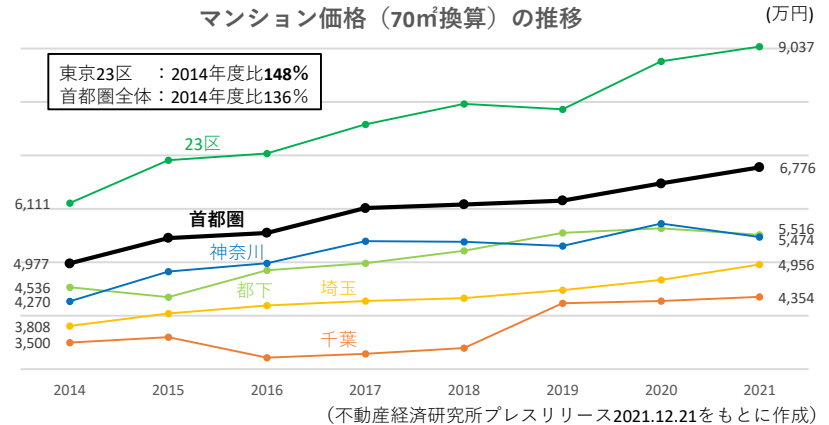
ただし、個別には、ランキング下位の「流山（千葉県）」や「和光市（埼玉県）」が今後の注目エリアという意見も見られます。

2. マンション価格の高騰

次に販売価格の実績を見てみます。直近では「首都圏のマンション価格はバブル期を超え、過去最高になる見通し」といったニュースが目立っています。内訳をみると、東京23区の価格上昇が全体を牽引しているようなので、逆に都心へのニーズが高まっているようにも見えます。

ただし、これには金利や減税の動向、単価の高いタワーマンションの増加、海外からの不動産投資などの要因が絡むため、“住みたいニーズ”とは直結しないかもしれません。

マンション価格（70㎡換算）の推移



3. 人口流出入の動向

総務省が12月23日に公表した人口移動報告により東京都は7ヶ月連続「転出超過」となりました。埼玉、千葉、神奈川の3県を含む東京圏では「転入超過」となっているため「都心から郊外へ」の推論と合致します。

4. まとめ

マイホームを買うなら都心か郊外か、今後ニーズが高まる（今買うとお得な）街を見極めようとしています。種々の情報が示す傾向には二面性があり、考えを絞れません。

それに関連して「郊外移住、都心集中、両面あるコロナ禍変容」という記事を見つけました。(URL:<https://www.jhf.go.jp/files/400356317.pdf>)

記事の中では「都心か郊外か」の二者択一自体が古い考えとなってきた、という趣旨の記述がありました。

今後、働き方の自由度が高まれば、住む場所、暮らし方の選択肢もさらに広がるということでしょうか。

自身の働き方も見直しながらマイホームを決めたいと思います。



たすきリレー

新幹線との係わり

鹿島建設 佐藤 武志

昭和55年4月に日本国有鉄道に入社し、研修後初めて配属になったのが東京第一工事局地下鉄線課であった。研修時にあなたの配属先は地下鉄線課と言われた時は、いったいどんな仕事をしているのかと思ったが、配属後職場の上司から説明があったのが「すべての係が東北新幹線に従事している」との事であった。これが私の新幹線との最初の係わりである。

通学途中に上野駅を通過していたこともあって、上野駅の現場には「東京第一工事局」と書いた工事用看板が立っており、国鉄への入社が決まった後は、私もこんな仕事が出来れば良いなと漠然に考えていたが、その事が現実になった瞬間でもあった。

当時の東一工地下鉄線課の守備範囲は上野駅の終点方に作られた下谷立坑からの下谷シールド、寛永寺橋立坑からの寛永寺橋シールド、日暮里立坑からの在来線直下をパイプルーフで抜ける日暮里トンネル、日暮里駅の東北・高崎線ホームを廃止して海側に在来線を振って作った空間を作るU型擁壁から日暮里高架橋、間の坂橋りょう、西日暮里高架橋へ続く範囲であり、シールドトンネルから高架橋までである山岳トンネルを除く鉄道構造物の全てと書いて良い物が揃っており、とても勉強になったのを覚えている。上野～田端間は、特認を取り線路中心間隔が4.2mであったが、新幹線の線間が4.3mである事を知ったのはだいぶ先の話でもあった。

そして迎えた昭和57年6月の東北新幹線の上野開業、試運転列車を西日暮里駅近くのビル屋上から見た感激はいまだに強く残っている。この経験を初めての現場でできた事は、その後の鉄道人生においてプラスになった事は間違いないと思う。

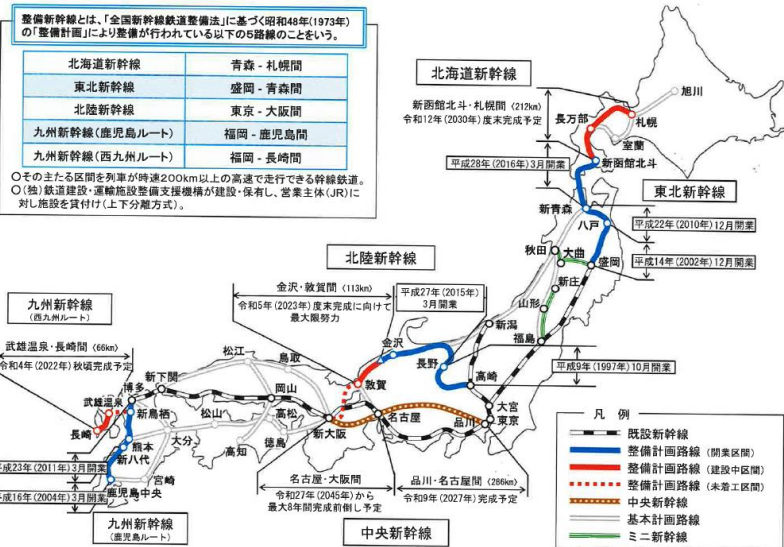
そうこうしているうちに国鉄分割民営化の話が具体的になってきた。当時の国鉄の財政は如何ともしがたいものがあり、上野開業を国鉄時代に迎えた東北新幹線も東京延伸は見通せなくなったかに感じたものである。

その後、JR東日本への採用が決まり、新幹線とはしばらく距離を置いていたが、整備新幹線の話が持ち上がってきた。整備新幹線は全国新幹線鉄道整備法第7条に基づいて整備計画が決定された路線であり、JR東日本管内にも東北新幹線盛岡～新青森間、北陸新幹線高崎～上越妙高間が存在していた。整備新幹線の整備手法は、JRの

負担が受益の範囲内とされた事、並行在来線のJRからの分離が認められた事、整備計画策定前に営業主体の同意を必要とした等の法律改正から進み始めてと云って過言では無いと思う。

その後、投資計画部時代の横川～軽井沢間の直轄流動調査、建設工事部時代の高崎～長野間の開業監査で新幹線と関わったが、その間にも整備新幹線の歩みは決して早くなかったが、着実に進行していた。そしてJR東日本としては最後となった長野～上越妙高の開業を長野支社企画部長として迎える事となる。私の鉄道人生は新幹線で始まり新幹線で終わる事となる。当時の長野支社には、長野開業を知る人は居ないに等しい状態であった。開業監査も自分たちの都合のみを優先する様な状態であり、非常に苦労したのを覚えているが、何とか開業にこぎつける事が出来た。開業日の朝、経営分離した長野～妙高高原間で「しなの鉄道線」が架線凍結した事も今と成っては良い思い出である。

入社当時は、東北新幹線だけでなく、上越新幹線や成田新幹線の工事も進捗しており、その後の整備新幹線を含め、さしたる時間もかからずに全線開業をするのではと考えていた。国鉄分割民営化があった事もあり、現状は整備新幹線が全線開業を向かえたのはJR東日本管内だけと言う状況であるが、どの様な手法でどの様に整備するかは、関係者の知恵で何とかなるのではないかと考えており、現役の皆様に期待している。今後も新幹線は我が国の重要なインフラとしてその使命を果たして行くものと思っている。





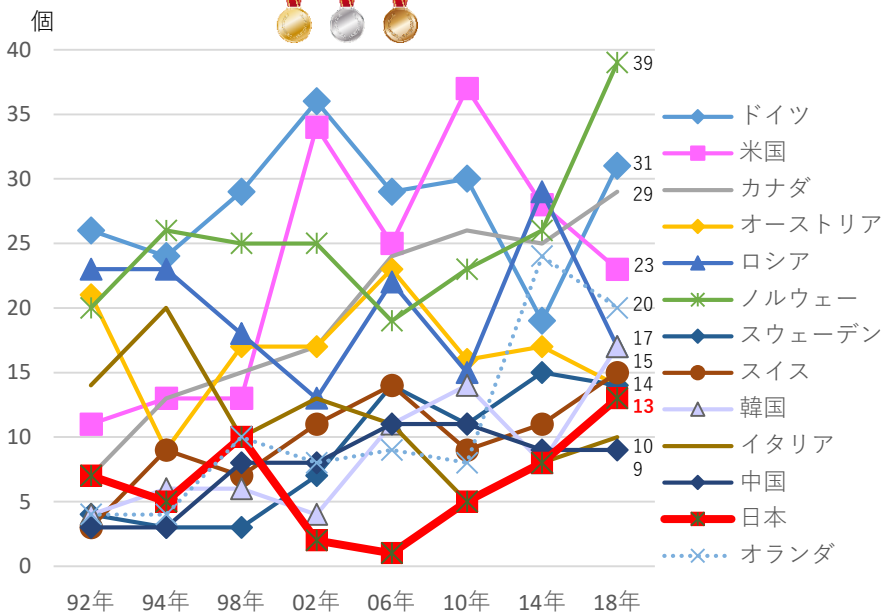
今月の国際比較データ



来月4日に開幕する予定の「北京2022冬季オリンピック」。冬季オリンピックの各国の獲得メダル数は夏季オリンピックほどは知られていませんので、今回紹介させていただきます。今大会の日本選手団の活躍に期待です。（オリンピックとは関係がありませんが、オンライン消費の国際比較も紹介いたします。日本は平均以下に位置していることがわかります。）

●冬季オリンピック主要国メダル獲得数の推移（最近8大会）

[金銀銅メダル合計]

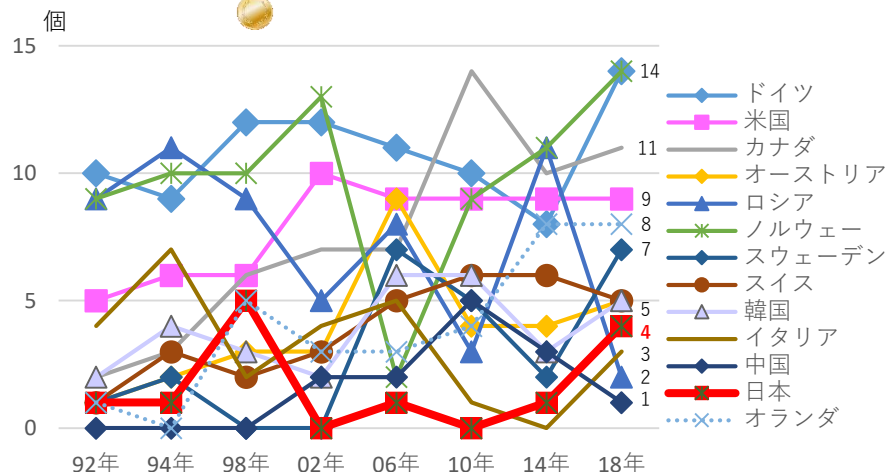


[開催都市（開催国）]

- 92年：アルペールビル（フランス）
- 94年：リレハンメル（ノルウェー）
- 98年：長野（日本）
- 02年：ソルトレークシティ（米国）
- 06年：トリノ（イタリア）
- 10年：バンクーバー（カナダ）
- 14年：ソチ（ロシア）
- 18年：ピョンチャン（韓国）

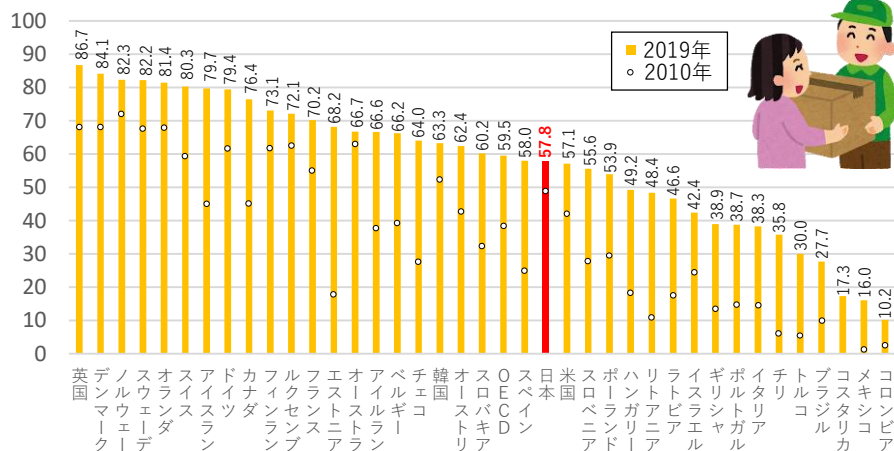


[金メダルのみ]



●オンライン消費の国際比較

[財・サービスをオンラインで注文したことがある個人の割合（%）]



出所：OECD, Digital Economy Outlook 2020



PF 書店



本の題名をクイックすると、出版社の書籍紹介HPにリンクします！

① 第三の支柱—コミュニティ再生の経済学

(ラグラム・ラジャン 著 みすず書房)

国家、市場に続く第三の支柱「コミュニティ」。この三者がどのように相互作用しバランスを崩し、現在の危機に至ったかを壮大なスケールで描く。そして「コミュニティ」の再生に活路を見出す。

「コミュニティ」は大なり小なり我々の生活に密着した切っても切り離せないもの。最小単位の家族から国家に至るまで「コミュニティ」の持つ特性や秩序を考えていくことで今の世の中の状況を俯瞰する、これとない機会を得ることができる一冊となっている。

② 恐れのない組織

(エイミー・C・エドモントン 著 英治出版)

そもそもなぜ「心理的安全性」が必要なのか？組織が躍動するには対人関係の恐れはまったく必要がないこと。「心理的安全性」は単なる職場の個性ではなく、リーダーが生み出せるし生み出さなければならぬ職場の特徴だと断言しており、恐れるべきは会社のメンバーがしっかりと関与できていないこと。恐れのない組織を目指すべきで、その鍵が「心理的安全性」にあるとしている。土台を作る、参加を求める、生産的に対応する、という3つの要素が「心理的安全性」を確立するためのリーダーが使うべきツールであることを説いている。なお、心理的安全性を高めることができるのは何もリーダーだけではない。恐れのない組織を確立する方法として参考にしたいビジネス書である。

③ 世界標準の経営理論

(入山章栄 著 ダイヤモンド社)

「ビジネスの真理に肉薄している可能性が高い」として生き残ってきた30の「標準理論」が体系的かつ網羅的にまとめられており、両利きの経営の重要性をはじめとして、それらの標準理論を各ディシプリンの中で体系的に位置づけながら、実例を交えて著者の入山章栄氏が平易な文章で紹介している。経営理論は必ずしも正解を与えてくれないかもしれないが、説明に対する説得力を与えてくれ、答えを探す上で必要な汎用的視点を与えてくれる。自分の興味ある項目のみを読む辞書的な使い方も有効な価値ある一冊である。



私のインフラ巡礼



「中央本線笹子隧道」 (山梨県大月市)



笹子隧道記念碑建設の由来

笹子隧道は明治33年(1898年)10月に着工し、明治35年(1902年)11月に完成した。全長1,656mは、当時東洋一の鉄道トンネルとして注目された。また、雄略を貫く大工事。当時の技術からも驚嘆の的であった。新中、山梨県の交通の要衝を過ぎる第一歩としての意義は大なるものであった。この度、記念碑が国鉄公園より笹子駅前に移動することとなり、昔日を回顧しつつこの一文を記す。

平成5年(1993年)6月29日
大月市長 秋山 重 友

今年「壬寅」の年。この壬寅に完成した建造物等の一つが120年前の1902年(明治35年)に完成した中央本線笹子隧道。当時の最新技術を駆使し、日本人技術者によって作りあげられた当時日本最長のトンネルで、この工事によって日本における鉄道トンネル工事の近代化がはじまったとされています。坑門の上に伊藤博文と山形有朋書の扁額が掲げられており、今も現役(中央本線下り線)で日本の物流を支えています。なお、笹子駅前には「笹子隧道記念碑」が移設・建立されています。(JR東日本 岩井有人)

編集後記

今年寅年。個人的には年男でもあるため、「虎穴に入らずんば虎子を得ず」の気持ち忘れず、コロナウィルスの終息を願いつつ、公私ともに充実した一年になるように例年以上に精進したいと思います(プロ野球界では寅年は虎ではなく竜が躍進するという迷信?傾向?)があり、竜党の自分としては新生・立浪竜に期待したい一年です。(A.I.)

プラットフォーム通信では、メンバーの皆様の投稿をお待ちしています。

連絡先：未来構想 PF 事務局 大口

電話：03-4334-8157 メール：info@miraikoso.or.jp

〒100-6005 東京都千代田区霞が関 3-2-5 霞が関ビル 5F-28